

アジア神学の歴史—帝国主義 宣教から民衆神学まで

徐正敏教授
明治学院大学

アジアのキリスト教を理解する三つのキーワード：

帝国主義、民族主義、社会主義

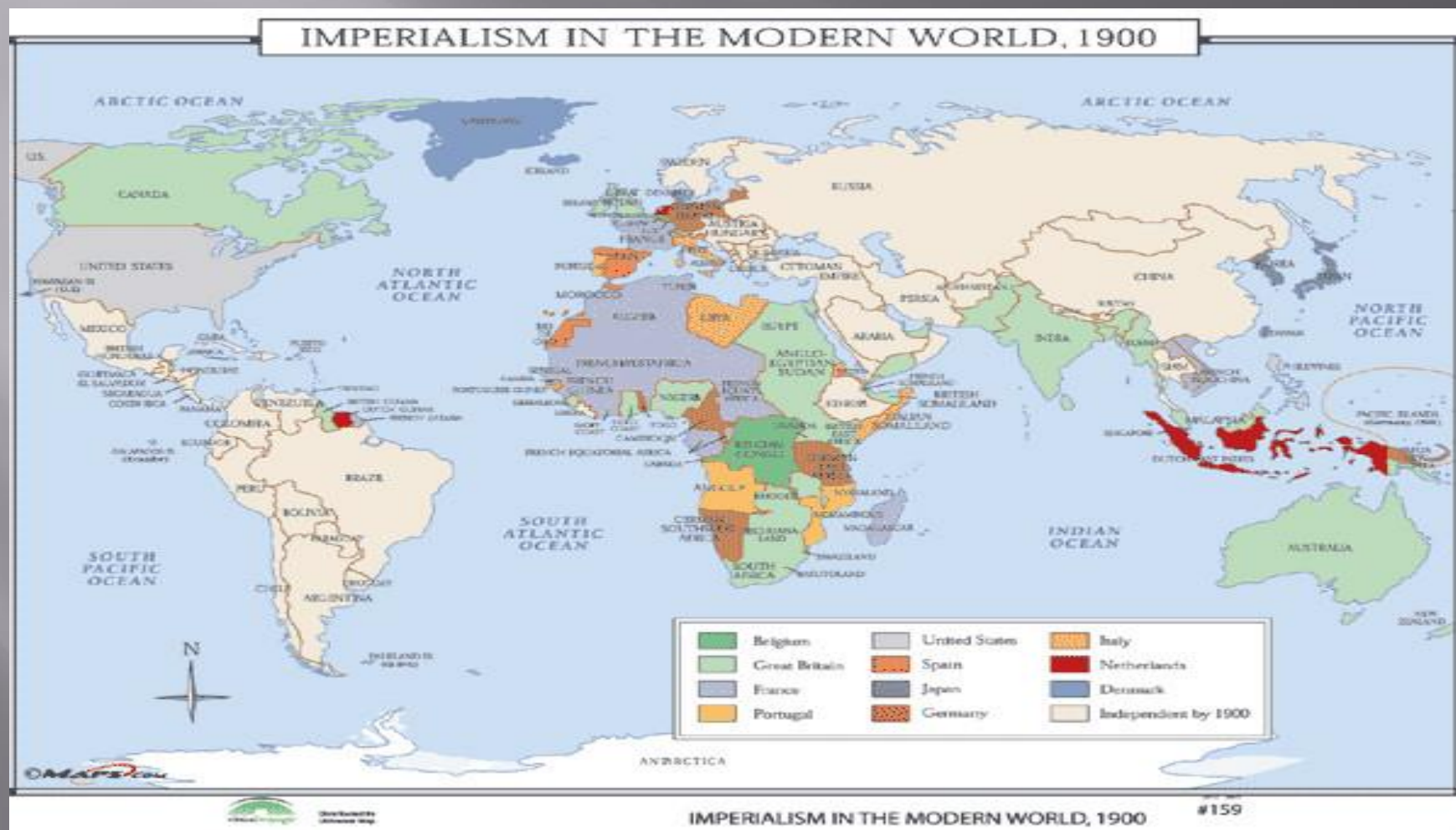
- * 日中韓とアジアアイデンティティ
(identity)

- * 日中韓のキリスト教接触史

A.F.J. Klijn, *The Acts of Thomas: Introduction, Text, and Commentary* (Leiden: Koninklijke Brill NV, 2003); *History of Christianity in India* (Bangalore: Church History Association of India, 2001);

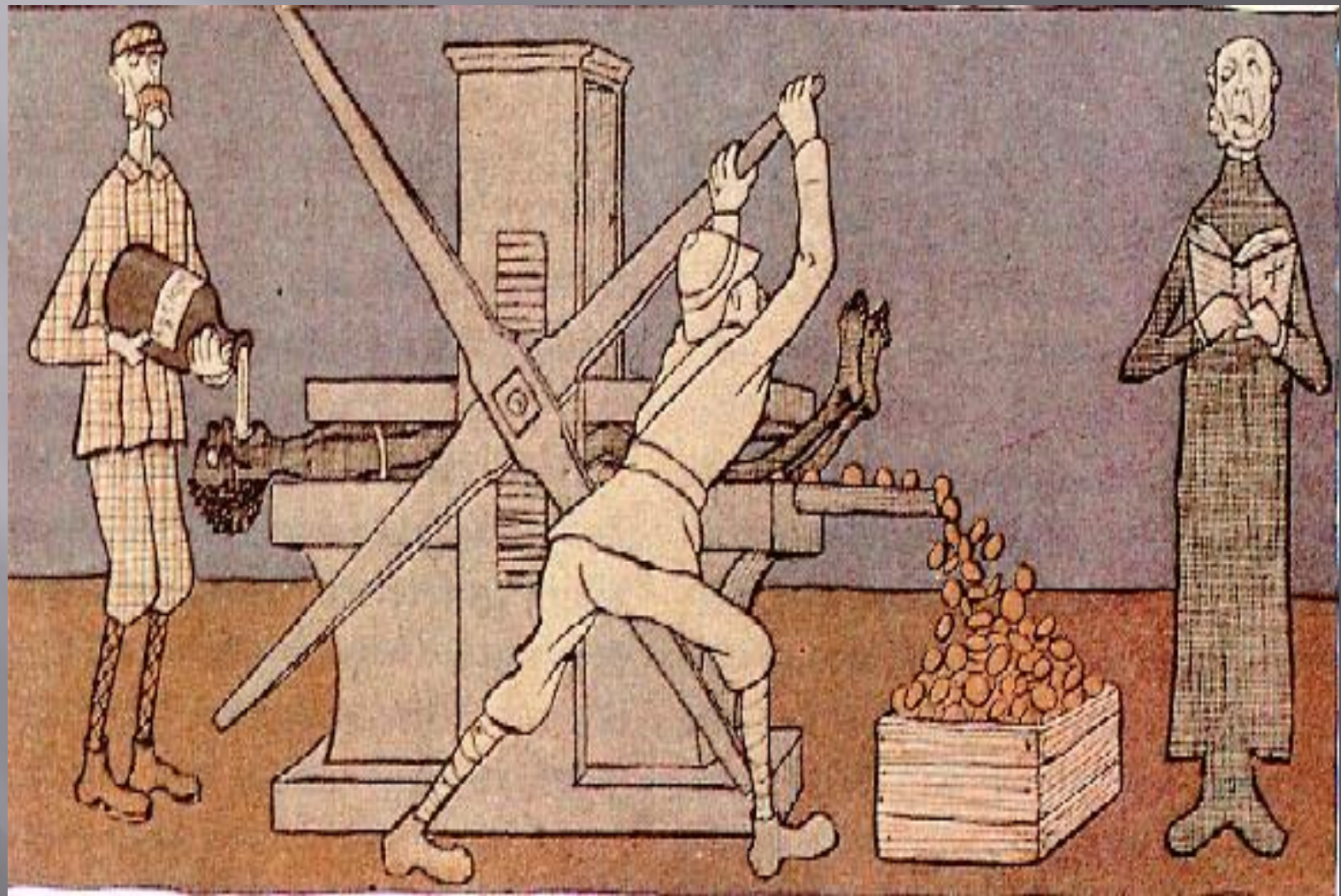
S.J. Anthonysamy, *A Saga of Faith: St. Thomas the Apostle of India* (Mylapore: National Shrine of St. Thomas Basilica, 2009); H.D. Souza, *In the Steps of St. Thomas* (Mylapore: Disciples of St. Thomas, 2009); 王治心, 『中国基督教史講』 (香港: 基督教文芸出版社, 1979); 한국기독교 역사학회 편, 『한국기독교의 역사 1』, 개정판, (서울: 기독교문사, 2011>)

＊「帝国主義」（imperialism、あるいは「植民地主義」< colonialism >）とキリスト教

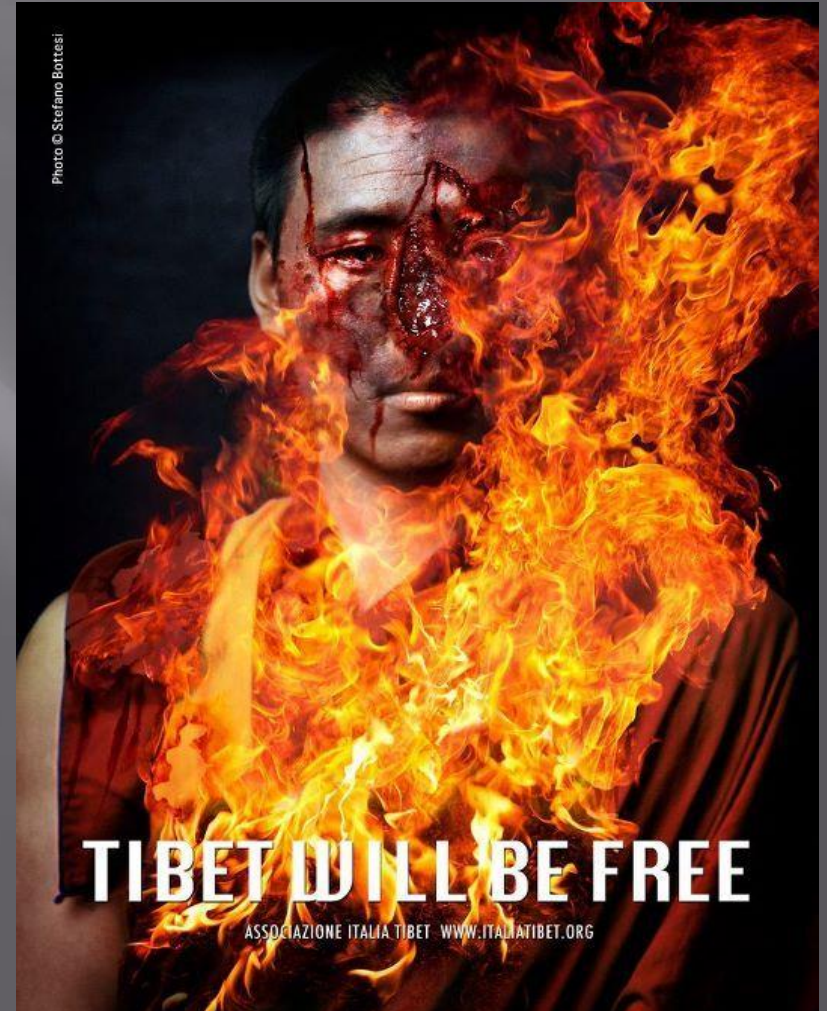


カトリック帝国主義（植民地主義）
プロテスタント帝国主義（植民地主義）
非キリスト教帝国主義（植民地主義）





* 「民族主義」とキリスト教



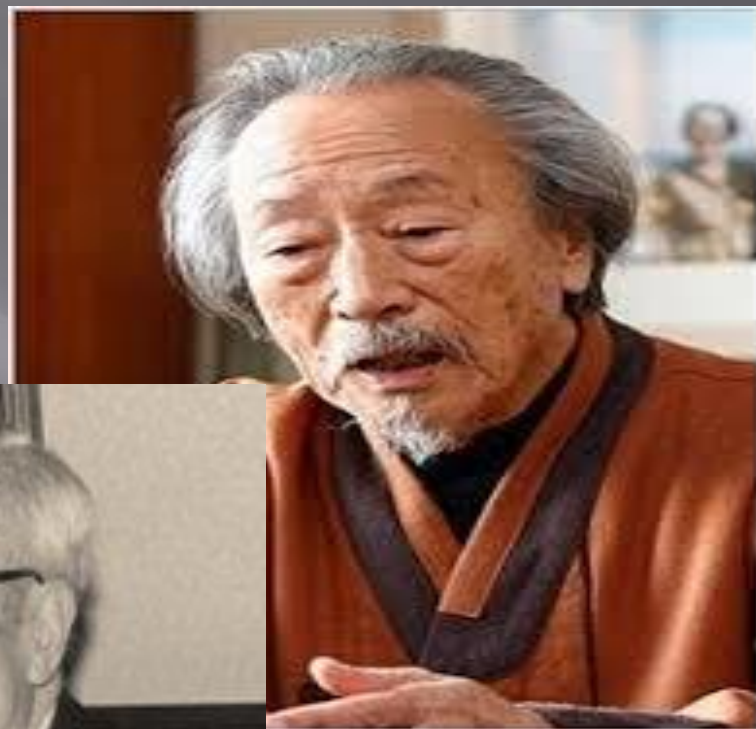
＊「社会主義」とキリスト教



＊「資本主義」とキリスト教



* アジア土着化神学者たち



* 「状況神学」に対する理解

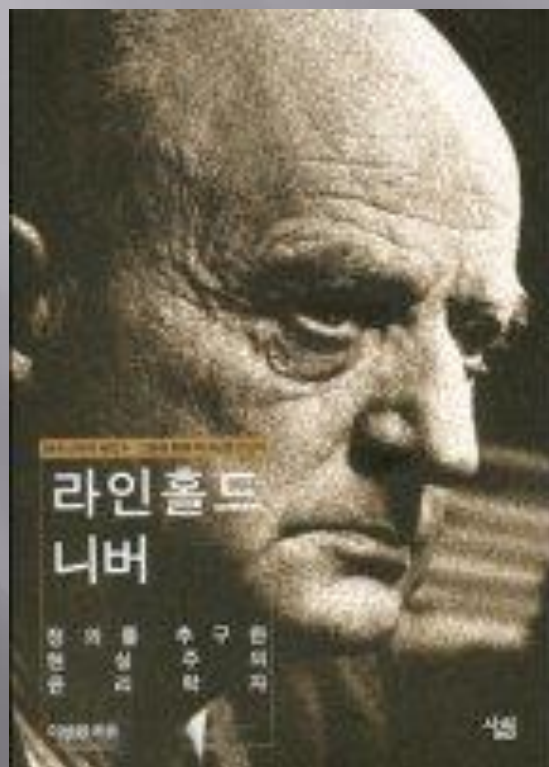
特定な状況、コンテクストの具体的立場に立って『聖書』を読み、特にイエスは状況の質問に対して、どのように答え行動するかを理解し、それにしたがって、神学的理論と実践を追求する学問である。

イエスの聖殿浄化



「社会福音」に対する理解

神の国を歴史の上で建設することもクリスチャンの使命である。



世界的な神学として「女性神学」、アメリカの「黒人神学」、南米の「解放神学」、日本の「部落神学」、韓国の「民衆神学」



